

第2回アドバンス講座レポート

平成20年2月23・24日 M. M (愛知県・正会員)

田中先生のセミナーはアドバンス講座と銘打たれているのだが、基礎の重要性、有用性を示してくれるものだった。基礎とは知識のこと。◆患者の訴える主訴を解剖学と生理学の知識のフィルターにかける。患者の訴えに解剖学的・生理学的な矛盾を感じる時は患者に聞き返し納得ができるまで追求する。◆一つの訴えから、予測される問題につながる他の症状を患者に質問する。患者は驚き、信頼する。手技的治療は患者の主訴を短時間で少ない手数で治す。これも患者の信頼を得るための手段としてのパフォーマンス。こちらが主導権を握るための手段。本題である【生活習慣の改善】の指導に耳を傾けさせるための手段として「手技」で結果を出す。◆現代人の抱える問題の多くは生活習慣に起因する各種化学反応異常からきていると田中先生はとらえている。肩こり、腰痛、寝違え、腱炎などなじみの深い症状から、免疫系の問題なども「食べ物と食べ方・運動と動き方」で改善していく。◆「森羅万象」という言葉を田中先生はよく使うが、つまりそれは「自然の法則」のことだった。自然の法則に沿った生活をしていれば、健康が維持できる。精神状態もいい。病気やけがにかかっても回復が早い。自然に沿った生活とは、生理学に自身に適った食生活であり、解剖学にかなった動き方のこと。◆人々を健康に導く仕事をしている私たちは、この生理学と解剖学は患者を診るときの物差しとして必要であり、また健康へ導くべき指標として必修とさえ言えるものである、と田中先生のセミナーを通して私は思いはじめています。

さて、第2回のアドバンス講座の内容の報告を。テーマは【内臓と静脈圧】。今回のアドバンス講座に参加された方が最初の自己紹介で、「内臓の治療を知りたくて」と参加の動機にあげられていた。私も田中先生の内臓の治療にぜひ実際に体験したいと思っていた。「内臓のモビリゼーション」と言い方をされていた田中先生の内臓の治療とは・・・◆実際確かにモビリゼーション＝動かしている、と実感できるものだった。うっ血を流すことを狙った腸管系の内臓にはかなりの圧力をかける。肝臓やすい臓に影響が大きい下部肋骨もダイナミックに。オッディーは絞り込むようにして捉まえていた。◆内臓マニピュレーションでいう自動力を改善する、といったやり方は田中先生が臨床で使うことは少ない。理由として、改善するのに時間がかかることと患者へのアピール度。優しくゆっくりやっていると患者さんに「そこを動かされた」という実感を持たせにくいから。◆あくまで内臓の治療は、その臓器が主訴に影響をしていることを患者に知らしめるための手段。内臓の治療は、その後の生活習慣の改善へ取り組ませるための動機付けとしてみせるためのもの。「そこを治療したら楽になったでしょう」、ということをお患者に納得させるために短時間で実感がわくような手技を選択している。◆このダイナミックな内臓の治療は簡単そうに見えたが、私にはあそこまで強く押す自信はもてなかった。静脈瘤や腺の臓器(すい臓・脾臓・腎臓)がつぶれはしないかと思ってしまう。田中先生も「内臓の位置を正確に把握して狙ったものを捕まえ、加減を見ながら動かせる触診力が必要」、だと言われていた。◆その他、二日間のセミナーではいろんなことを聞くことができた。“痛みは静脈のうっ血”、“頭痛は水分が足りない状態。水を飲めば楽になる。お茶はだめ、お茶は利尿作用があるから”、“頭がボーっとするのは門脈圧の亢進からくることも←肝臓の血流が悪い←肝臓に脂肪が溜まっている←砂糖を多くとっている”、などなど知っているのと役に立ちそうなことが。「生理学の本に出ているから読んで」と田中先生。

◆「疲れていても1ページでも読もう」、と努力を続けてきた田中先生。「患者さんたちに勧める生活指導は全部自分で試してきたこと」、という田中先生。

私に生活指導ができるだろうか。甘いものは止められない。勉強する意志は睡魔に負ける。生まれ

てこのかた努力を継続できたことはない私。身体に悪いのがわかっているにもかかわらず止められない意志が弱い私。これまでいろいろなセミナーを受けて触発されても、家に帰ると知識や技術がモノになるまでやりとおせなかった。◆田中先生に質問しました。「こんな患者さんいるでしょう。生活指導をしても実行できない人が」。すると軽く返されました。「そういう人は自分の望みに集中できない人。自己管理ができない人にはそういった指導もしますよ」とのこと。

まさに第3回のセミナーのテーマが「自己管理」。自分を見つめることで望みに集中できるようになるって本当だろうか。「選択ができる・望みにかなうように行動できる」って、これはまさに私に今一番必要なこと。

◆田中先生、M. Mからの要望です。次回のセミナーでは「望みを抱けない」という段階から始めてくださいね。